2016年度 主要私立大志願状況（2 月 22 日現在集計）

河合塾

2016/2/23

私立大一般入試では２月入試が終盤を迎え、後期（３月）入試の出願がスタートしている。主要大の２月入試の志願者数がほぼ出揃った現時点の志願者集計（2 月 22 日現在）から今春入試を分析する。

■一般・センター方式ともに志願者数は増加

【表１】は現時点で志願者数が判明している全国 105 大学の状況をまとめたものである。今年度の一般入試の志願者数は全体で前年比 104%と増加した。国公立大のメイン入試である前期日程志願者数が前年並みとなっているのとは対照的である。新課程移行後、センター試験の理科の科目負担が文系・理系ともに重くなっている。こうしたことから国公立大を敬遠して私立大を手厚く受験するといった動きが生じていると思われる。私立大の入試方式別の志願者数も、一般方式で前年比 105%、センター方式で同 103%とセンター方式での増加率が低くなっており、新課程によるセンター試験の変更の影響を感じさせる。なお、私立大では一度の試験で複数学部・学科への出願を認める、同時に複数方式に出願すると受験料を割引くといった一人あたりの出願校数を増やす仕組みの導入が広がっており、これも私立大の総志願者数増加につながっている。

【表１】私立大　大学グループ別志願状況

学校区分		一般方式			センター利用方式			合計		
		15年度	16年度	前年比	15年度	16年度	前年比	15年度	16年度	前年比
主要105大学　計		1,505,190	1,582,678	105%	710,268	730,986	103%	2,215,458	2,313,664	104%
主な内訳	早慶上理	195,439	196,881	101%	33,193	33,859	102%	228,632	230,740	101%
	MARCH	264,309	275,197	104%	130,034	129,800	100%	394,343	404,997	103%
	日東駒専	129,194	141,595	110%	90,839	96,212	106%	220,033	237,807	108%
	成成明國武	59,020	60,175	102%	35,581	33,688	95%	94,601	93,863	99%
	首都圏理系8大学	92,413	108,776	118%	54,727	61,850	113%	147,140	170,626	116%
	首都圏女子13大学	32,407	33,383	103%	22,607	22,840	101%	55,014	56,223	102%
	関関同立	168,606	172,623	102%	76,067	75,772	100%	244,673	248,395	102%
	産近甲龍	139,040	147,185	106%	43,742	45,525	104%	182,782	192,710	105%
	上記以外の大学	424,762	446,863	105%	223,478	231,440	104%	648,240	678,303	105%

※数値は2/22現在、出願期間中の方式、2期入試および2部(夜間主)は集計対象外

（大学グループ）

早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科　MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政　成成明國武：成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修　首都圏理系8大学：千葉工業・北里・工学院・東京工科・東京電機・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子13大学：大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院

関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館　産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

■難関大グループの志願者数は増加傾向　早稲田大は９年ぶりの志願者増

大学グループ別の志願状況では、「早慶上理」は前年比 101%となった。早稲田大、慶應義塾大で志願者が増加した。慶應義塾大は昨年に続く志願者増、早稲田大は９年ぶりの志願者増となった。慶應義塾大は昨年７年ぶりに志願者が増加に転じており、長らく志願者の減少が続いた早慶は、今春、久しぶりにともに志願者増となった。一方、東京理科大の志願者は前年並み、上智大では減少した。上智大では、昨年導入したＴＥＡＰ利用型入試の志願者が半減したことが影響した。

「ＭＡＲＣＨ」は前年比 103%と志願者が増加した。グループ内では中央大、法政大、明治大で志願者が増加、青山学院大は前年並みとなった。唯一志願者が減少したのが立教大で前年比 91%となった。「日東駒専」は志願者前年比 108%と大きく増加した。日本大、駒澤大、専修大では志願者が増加しているが、前年大きく志願者数を伸ばした東洋大は、今春は反動で減少した。

「首都圏理系８大学」は前年比 116%と志願者は大幅に増加した。ただし、この増加は千葉工業大の志願者が 2 万 5 千人ほど増加（前年比 154%）した影響が大きい。後ほど詳しく述べるが、学部系統の人気は文高理低となっており、理工系大学・学部では志願者の減少が目立つ。このグループでも東京電機大、東京農業大などで志願者が減少した。なお、千葉工業大の志願者増は学部改組のためである。工学部を工、創造工、先進工の３学部に再編したが、千葉工業大では１方式の出願で何学科併願しても受験料は１学科分という受験料割引を実施しているため、延べ志願者数が大幅に増加したとみられる。

西に目を向けると、「関関同立」は前年比 102%と志願者が増加した。同志社大、立命館大は志願者増、関西大は前年並み、関西学院大では志願者が減少した。立命館大は３年連続の志願者増となった。今春の志願者は前年比 109%と増加率も高い。昨春の大阪いばらきキャンパスの設置に続き、今春は総合心理学部を設置した。これらにより志願者数が増加している。一方、関西学院大では３年連続の志願者減となった。

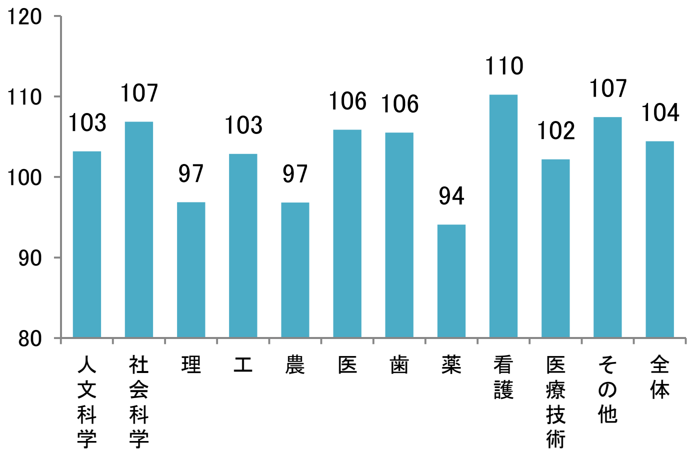
「産近甲龍」は前年比 105%と増加した。京都産業大、近畿大、龍谷大で志願者が増加しているものの、甲南大では減少した。京都産業大では今春、理学部に宇宙物理・気象学科を新設した。この学科だけで１千８百人近

©Kawaijuku Educational Institution.

い志願者が集まった。近畿大では今春新設された国際学部だけで４千６百人を超える志願者を集めた。なお、昨年まで２年連続で志願者数日本一だった近畿大は、１期入試のみ集計している現時点では、明治大、早稲田大、法政大に続き、第４位となっている。

■学部系統別－文高理低鮮明に

【グラフ２】私立大 学部系統別志願状況



※数値は志願者前年比（%）
※2/22判明分で、出願期間中の方式、2期入試および2部（夜間主）は除いて比較

【グラフ２】は学部系統別の志願動向である。昨春､長らく続いた文系不人気は終わりを告げ、「文高理低」へと変化したが、今春もその傾向は続いている。

「人文科学」は前年比 103%､「社会科学」は同 107%と、社会科学系の増加率が高い。｢社会科学」ではいずれの分野も増加しているが、なかでも法学系で前年比 111%と増加が目立つ。難関大では、早稲田大では志願者が減少（前年比 89%）、慶應義塾大では前年並み（同 102%）と、系統全体の動向と異なっているものの、中央大（同 137%）、法政大（同 112%）、同志社大（同 111%）などでは志願者が大きく増加している。

理系では「理」「農」で前年比 97%と志願者が減少した。また、「工」では前年比 103%と志願者は増加しているが、私立大全体の志願者数が同 104%であることを考えれば、以前の勢いは感じられない。

医療系では分野により動向が分かれた。「医」「歯」では前年比 106%と志願者が増加、一方「薬」は同 94%と減少した。｢医」は国公立大では志願者が減少しており､対照的な動向となった。方式別にみると一般方式で 107%、センター方式で 100%と、増加は一般方式による。「薬」は昨春に続き２年連続の志願者減となった。慶應義塾大（前年比 94%）、東京理科大（同 78%）は２年連続の志願者減となっており、難関大も例外ではない。「看護」では今春も学部・学科の新設が続いた影響もあり、志願者前年比 110%と増加している。

■各地区主要大学の志願状況

次に全国の主要大学の志願状況（判明分）をみてみる。**【表３】**はいずれも２月 22 日までに判明した１期（２月実施）入試の集計である。

［青山学院大学］

大学全体の志願者数は前年比 100%と前年並みである。昨年の志願者数は過去 10 年で最多であったが、今春もその志願者数を維持した。ただし、方式別では一般方式で前年比 102%、センター方式で同 94%と対照的な動向となっている。学部別にみると、志願者が増加しているのは、文、総合文化政策、国際政治経済、法、経営、社会情報学部である。このうち総合文化政策、国際政治経済、経営学部などは前年の志願者が減少しており、その反動もあろう。

一方、志願者が減少しているのは教育人間科学、経済、地球社会共生学部などである。こちらも教育人間科学、経済学部は前年に志願者が増加しており､反動を感じさせる。新設２年目となる地球社会共生学部の志願者数は、今春からセンター方式を導入したにもかかわらず前年比 54%と大きく減少した。他の文系学部とは異なる相模原キャンパスに設置されていることが、敬遠要因の一つかもしれない。

なお､文（英米文)､総合文化政策、地球社会共生学部は、今春よりＴＥＡＰ（アカデミック英語能力判定試験）の規定スコアを出願要件とする方式を実施した。この英語外部試験利用型の志願倍率（志願者／募集人員）は他の方式と大きな差がついた。英語外部試験を一般入試に利用する動きは徐々に広がりをみせるが、受験生側の動きは鈍いといえるだろう。

[慶應義塾大学]

大学全体の志願者数は前年比 103%となった。２年連続の増加である。2008 年度をピークに以降続いていた志願者の減少が昨年７年ぶりに増加し、今春はさらに増加した。大学全体としては人気の復活を感じさせる。

学部別にみると、志願者の増加が目立つのは文、経済、商学部などである。とくに文学部は前年比 113%と大きく志願者が増加した。経済学部はＰＥＡＲＬ入試の導入により、一般入試の募集人員は減少している（Ａ方式 480→420 名、Ｂ方式 240→210 名）にもかかわらず志願者が増加しており、募集人員減は志願動向に影響を与えなかった。社会科学系では法学部の志願者も前年比 102%と僅かながら増加した。法学部は９年ぶりの志願者増である。学科別にみると法律学科で前年比 99%、政治学科で同 105%と、政治学科で志願者が増加している。

©Kawaijuku Educational Institution.

理工学部の志願者数は前年比 100%であるが、学門別では化学系の学門３で前年比 91%、数学系の学門２では同 111%と人気に差が出た。

多くの学部で志願者が増加した中、志願者が減少しているのは、医、薬の２学部である。薬学部は全国的にも不人気の系統であり、２年連続の志願者減となった。

[上智大学]

志願者数は前年比 87%と大きく減少した。５年ぶりの志願者減である。学部別にみても全学部で志願者が減少している。最大の要因は昨春からスタートしたＴＥＡＰ利用型入試にある。ＴＥＡＰ利用型の志願者数は、大学全体で昨春の 9,106 人から 4,634 人へ半減した。ＴＥＡＰ利用型では各学部でＴＥＡＰの基準スコアがかさ上げされたほか、一部の学部・学科では２技能から４技能利用に変更された。ハードルが上がったことで受験生に敬遠された。とくに４技能が必要となった学部・学科では、文（新聞）501 人→115 人、総合人間科学（教育）381 人→71 人、総合グローバル 774 人→282 人など、志願者の減少が著しい（人数は昨年→今年）。

一方、学科別入試では大学全体の志願者数は前年比 102%と増加している。なかでも法学部（前年比 109%）、総合グローバル学部（同 117%）で増加率が高い。全国的にも人気が出ている法、国際系の人気がそのまま反映されている。

開設６年目を迎える総合人間科学部の看護学科は昨春まで志願者の減少が続いていたが、今春は初めて志願者数が増加に転じた。

【表３】主要私立大　大学別志願状況

大学	一般方式			センター利用方式			合計		
	15年度	16年度	前年比	15年度	16年度	前年比	15年度	16年度	前年比
北星学園	1,978	1,903	96%	1,022	855	84%	3,000	2,758	92%
北海学園	3,681	3,571	97%	2,094	1,995	95%	5,775	5,566	96%
東北学院	4,981	4,912	99%	2,973	3,238	109%	7,954	8,150	102%
千葉工業	25,656	42,980	168%	19,957	27,433	137%	45,613	70,413	154%
青山学院	45,544	46,537	102%	14,194	13,313	94%	59,738	59,850	100%
学習院	11,798	17,931	152%	－	－	－	11,798	17,931	152%
北里	12,720	12,524	98%	4,574	5,117	112%	17,294	17,641	102%
慶應義塾	43,352	44,797	103%	－	－	－	43,352	44,797	103%
工学院	11,890	12,310	104%	4,752	5,103	107%	16,642	17,413	105%
國學院	11,037	12,772	116%	5,991	5,412	90%	17,028	18,184	107%
国際基督教	1,870	1,581	85%	－	－	－	1,870	1,581	85%
国士舘	8,815	10,701	121%	6,459	7,811	121%	15,274	18,512	121%
駒澤	19,311	20,184	105%	10,093	16,331	162%	29,404	36,515	124%
芝浦工業	20,054	18,636	93%	15,524	12,213	79%	35,578	30,849	87%
上智	31,740	27,748	87%	－	－	－	31,740	27,748	87%
成蹊	12,867	12,643	98%	8,111	7,910	98%	20,978	20,553	98%
成城	10,976	11,450	104%	6,409	7,190	112%	17,385	18,640	107%
専修	18,073	21,085	117%	10,673	11,585	109%	28,746	32,670	114%
大東文化	7,405	7,258	98%	5,756	6,265	109%	13,161	13,523	103%
中央	38,072	40,155	105%	30,975	34,268	111%	69,047	74,423	108%
津田塾	1,539	1,575	102%	2,151	2,189	102%	3,690	3,764	102%
東海	22,163	22,396	101%	14,915	15,253	102%	37,078	37,649	102%
東京女子	4,405	4,141	94%	4,090	4,118	101%	8,495	8,259	97%
東京電機	10,266	10,419	101%	8,025	7,272	91%	18,291	17,691	97%
東京都市	8,043	7,372	92%	6,539	8,052	123%	14,582	15,424	106%
東京農業	20,174	19,305	96%	9,032	8,603	95%	29,206	27,908	96%
東京理科	31,467	32,252	102%	18,579	17,904	96%	50,046	50,156	100%
東洋	33,624	34,886	104%	39,128	35,130	90%	72,752	70,016	96%
日本	58,186	65,440	112%	30,945	33,166	107%	89,131	98,606	111%
日本女子	5,982	6,778	113%	4,271	5,041	118%	10,253	11,819	115%
法政	65,007	70,450	108%	28,979	31,526	109%	93,986	101,976	109%
武蔵	10,453	9,700	93%	3,643	3,945	108%	14,096	13,645	97%
明治	73,688	78,330	106%	31,533	29,725	94%	105,221	108,055	103%
明治学院	13,687	13,610	99%	11,427	9,231	81%	25,114	22,841	91%
立教	41,998	39,725	95%	24,353	20,968	86%	66,351	60,693	91%
早稲田	88,880	92,084	104%	14,614	15,955	109%	103,494	108,039	104%
愛知	10,768	11,407	106%	5,667	6,501	115%	16,435	17,908	109%
中京	15,558	14,323	92%	11,687	10,210	87%	27,245	24,533	90%
南山	13,085	15,465	118%	10,657	9,586	90%	23,742	25,051	106%
名城	20,115	20,817	103%	11,591	13,852	120%	31,706	34,669	109%
京都産業	19,182	21,756	113%	9,114	10,071	111%	28,296	31,827	112%
同志社	40,185	40,962	102%	9,156	9,157	100%	49,341	50,119	102%
立命館	43,923	50,002	114%	36,328	37,843	104%	80,251	87,845	109%
龍谷	32,736	34,910	107%	7,595	8,435	111%	40,331	43,345	107%
関西	57,116	56,545	99%	17,598	17,254	98%	74,714	73,799	99%
近畿	76,283	80,272	105%	20,473	20,677	101%	96,756	100,949	104%
関西学院	27,382	25,114	92%	12,985	11,518	89%	40,367	36,632	91%
甲南	10,839	10,247	95%	6,560	6,342	97%	17,399	16,589	95%
広島修道	4,081	5,273	129%	2,386	3,284	138%	6,467	8,557	132%
松山	5,629	5,554	99%	1,933	2,201	114%	7,562	7,755	103%
西南学院	11,857	13,714	116%	6,517	7,327	112%	18,374	21,041	115%
福岡	29,966	31,744	106%	12,599	13,650	108%	42,565	45,394	107%

※数値は2/22現在、出願期間中の方式、2期入試および2部(夜間主)は集計対象外

[中央大学]

志願者数は大学全体で前年比 108%と大きく増加した。５年ぶりの増加である。方式別にみても一般方式で前年比 105%、センター方式で同 111%と、いずれも増加している。

志願者の増加が目立つのは、法、経済、商など社会科学系の学部である。社会科学系学部の人気が上昇しており、追い風となっている。なかでも法学部の志願者は前年から４千人以上増加した（前年比 137%）。志願者増の最大の要因はセンター単独方式（前期）に３教科型を導入したことにある。この３教科型には既存の５教科型を

河合塾
©Kawaijuku Educational Institution.

上回る 3,405 人の志願者が集まった。また、既存の方式でも志願者は増加しており、人気の高まりを感じさせる。もともと法曹人材の輩出に定評はあるものの、近年の法学不人気が影響してか昨年まで４年連続の志願者減に甘んじていた。今春は一気に人気が盛り返した形だ。
一方、理工学部では前年比 95%と３年連続の減少となった。理系学部の人気が落ち着いてきていることもあり、ここ２年の志願者減少も反動にはつながらなかった。

[東京理科大学]

大学全体の志願者数は前年比 100%。東京理科大ではここ数年の志願者数は５万人前後で推移しており、安定した動きとなっている。方式別には一般方式の志願者数が前年比 102%、センター方式が同 96%とセンター方式で減少している。
学部別にみると、経営学部の志願者数が前年比 162%と大きく膨らんだ。新設されるビジネスエコノミクス学科に 1,560 人の志願者が集まったほか、既存の経営学科も前年より 400 人多い 3,575 人の志願者が集まった。経営学部は今春埼玉県の久喜キャンパスから東京の神楽坂キャンパスに全面移転する。加えて学科新設とは別に経営学科の入学定員が 240 名から 320 名に増員される。これらの増加要因があっての志願者増である。
理工系学部では、工学部で前年比 106%と志願者が増加しているものの、理、理工、基礎工の３学部ではいずれも志願者が減少した。とくに理学部では２年連続の志願者減となるが、今春は前年比 87%と志願者数は大きく落ち込んだ。さらに志願者の減少率が高いのが薬学部である。前年比 78%と前年から２割以上も減少した。薬学部も２年連続の志願者減となるが、理学部と共に前年以上の減少率となり、不人気が浮き彫りとなった。とくに６年制の薬学科で前年比 74%と減少率が高い。

[法政大学]

大学全体の志願者は 101,976 人（前年比 109%）と大きく増加した。志願者数が 10 万人を超えたのは、過去 20 年ほど遡っても初めてとなる。方式別にみても一般方式で前年比 108%、センター方式で同 109%と、いずれも志願者が増加している。
とくに志願者の増加率が著しいのは、グローバル教養（前年比 164%）、社会（同 116%）、現代福祉（同 170%）、法（同 112%）、経済（同 114%）、情報科学（同 110%）、人間環境学部（同 129%）で、社会科学系の顔ぶれが目立つ。グローバル教養学部ではＴ日程（統一日程入試）を新たに実施した。志願者はＡ方式に迫る 362 人が集まり、これが学部志願者増の最大の要因である。社会学部ではセンター方式で前年比 150%と大きく志願者が増加した。センター方式では新たにＣ方式（５教科６科目型）を実施しており、386 人の志願者が集まったが、既存のＢ方式（３教科型）でも志願者が８百人以上増加しており、むしろこの影響が大きい。
理系学部の不人気が目立つなか、法政大の理工、生命科学部の志願者数は前年並みを維持、デザイン工学部は昨年の志願者減の反動からか志願者が増加（前年比 107%）しており、文高理低の影響を感じさせない。
法政大では今春から６学部で英語外部試験利用入試を導入している。志願者数をみると、現代福祉（募集人員 7 名に対し 16 人）、スポーツ健康（募集人員 5 名に対し 6 人）など、極端に志願者が集まらなかった学部がみられた。この２学部は英検では準１級が必要など英語外部試験の基準スコアが比較的高いことも要因かもしれない。

[明治大学]

大学全体の志願者数は前年比 103%と増加した。志願者数 108,055 人は現時点では全国一である。この後、２期入試の志願者数が加わると変動がありそうだが、引き続き注目される。
方式別にみると、一般方式で前年比 106%、センター方式で同 94%と対照的な動向となった。一般方式では全学部統一は前年比 101%と前年並みの志願者数であるのに対し、一般選抜は同 108%と大きく増加している。
学部別にみると志願者が増加しているのは、文（前年比 115%）、政経（同 119%）、情報コミュニケーション学部（同 105%）などである。また、昨春５年ぶりの志願者増となった法学部は前年比 101%とその数を維持した。
一方、志願者が減少しているのは、国際日本（前年比 95%）、商（同 94%）、総合数理（同 89%）、農学部（同 92%）である。国際日本、総合数理、農学部は２年連続の志願者減となった。商学部は一般方式では志願者が増加しているものの、センター方式で前年比 69%と大きく落ち込み、学部全体の志願者数も減少した。商学部はセンター方式で理科を利用する場合、理科②が指定されている。なかでも理科②１科目が必須となる６科目方式では志願者は２年前の４割程度まで落ち込んでおり、理科の選択科目の影響は小さくない。一方、文学部のセンター方式は今春より理科①も利用できるようになった。学部人気の影響も無視できないが、センター方式の志願者数は前年比 114%と増加した。とくに５科目方式では前年の２倍以上の志願者が集まった。選択可能科目が同系統の他大学とある程度揃っているか否かは、志願者数に少なからず影響することが図らずも実証された形だ。

[立教大学]

大学全体の志願者数は前年比 91%と減少した。方式別でも一般・センター方式ともに志願者が減少しているが、センター方式で前年比 86%と減少幅が大きい。近年、立教大では志願者数の隔年現象がみられ、今春は減少年に当たるが、今春の志願者数は過去 10 年で最少となった。

河合塾
©Kawaijuku Educational Institution.

学部別にみても軒並み志願者数が減少するなか、法学部では前年比 109%と志願者が増加している。一般・センター方式ともに増加しており、人気の高まりを感じさせる。志願者が減少した学部の中には、前年の志願者増の反動と思われるものもある。たとえば、経済学部では今春の志願者前年比は 72%、減少数も全学部中で最も多い。前年に前年比 120%と志願者数が大きく増加しており、反動も大きくなった。

異文化コミュニケーション学部では、志願者数は前年比 76%と大きく減少した。4年連続の志願者減となるが、とくに今春の減少率は大きい。異文化コミュニケーション学部では入学定員が 115→130 名に増員されるが、志願者数の動向は全く逆となった。今春、学習院大に国際社会科学部が新設されるなど、近年は同系統の学部・学科の新設が相次ぐ。人気の系統ではあるものの、選択肢が増えたことで志願者が分散しているのではないか。

立教大では英語外部試験を利用する全学部日程グローバル方式を新たに実施した。方式ごとの志願者数の内訳は、全学部日程グローバル方式 374 人、全学部日程３教科方式 6,900 人、個別学部日程 32,451 人となっている。他大学同様、英語外部試験が出願要件となった方式の志願者数は少なく、学科によっては志願倍率（志願者／募集人員）が２倍を切っている。

[早稲田大学]

大学全体の志願者数は前年比 104%、９年ぶりの増加となった。方式別では一般方式で前年比 104%、センター方式で同 109%と、センター方式で増加率が高い。センター方式では文、文化構想学部が方式の複線化、商学部が科目数を減らすなどの増加要因があった。

学部別にみると、志願者が増加しているのは、文、教育、文化構想、政治経済、商、人間科学部などである。教育学部は３年連続で志願者が増加しており、今春の志願者数は過去 10 年で最多となった。文、文化構想、商学部はいずれも前年から１割以上志願者が増加している。文、文化構想学部では、既存のセンター併用方式に加え、センター試験のみの方式を新たに実施した。５教科６科目が必要であるうえ予想難度も高かったが、大学独自試験がないことから、文で 933 人、文化構想で 873 人の志願者が集まった。また、商学部のセンター方式では数学Ⅱ・数学Ｂが必須から選択になり、必要科目数が６科目から５科目に減った。このためセンター方式の志願者数は前年から 600 人近く増加し、2,200 人を超えた。

一方、志願者が減少しているのは、社会科学、国際教養、法学部などである。このうち社会科学部は 2009 年度をピークに７年連続の志願者減となっている。志願者数も過去 10 年で最少となった。

理工３学部の志願者は、基幹理工（前年比 104%）、創造理工（同 100%）、先進理工（同 92%）となった。前年の反動などから学部ごとにみれば異なる動きを示しているが、理工３学部の合計志願者数は近年 １ 万４千人前後で推移しており、大きな変動はみられない。

[同志社大学]

大学全体の志願者数は前年比 102%。志願者が減少した昨年から一転、増加した。ただし、過去 10 年で最多だった一昨年の志願者数には届かなかった。今春は学部の新設や大きな入試変更など、志願動向に影響する要素がなかったことも要因だろう。方式別にみると、一般方式で前年比 102%、センター方式で同 100%と、大きな変化はみられない。

学部別にみると、志願者が増加しているのはグローバル・コミュニケーション、法、経済学部などである。グローバル・コミュニケーション学部は 2011 年度の新設以来、志願者数の減少が続いていたが、今春初めて増加に転じた。その一方で、グローバル地域文化学部の志願者数は２年連続の志願者減となっている。法学部の志願者は前年比 111%と大きく増加した。法学部では昨年まで３年連続で志願者が減少しており、その反動もあるだろう。また、経済学部は４年連続の志願者増であるが、この間一般方式の志願者数は増加を続け、センター方式では減少が続くという対照的な動向となっている。

一方、志願者減となっているのは、前述のグローバル地域文化学部のほか、政策、文化情報学部などである。政策学部は２年連続の志願者減であるが、とくにセンター方式で前年比 75%と減少率が高い。

理工学部では前年比 99%と前年並みの志願者数となっている。近年、理工学部の志願者数が１万２千人台の後半で推移しており、今年も大きな変化はない。なお、理科が物理必須から化学との選択になった電気工、電子工学科では、それぞれ志願者が１割以上増加している。

[立命館大学]

大学全体の志願者数は前年比 109%となった。関関同立の中で志願者の増加率が最も高くなった。志願者の増加は３年連続となる。方式別にみると、一般方式で前年比 114%、センター方式で同 104%と、一般方式で増加率が高い。

今春は学部新設をはじめとした入試変更が多い。学部新設では大阪いばらきキャンパスに総合心理学部が設置された。4,000 人を超える志願者が集まっており、一般方式の志願者増はこの影響が大きい。

法学部は特修での募集を取りやめた。志願者数は学部全体で前年比 106%と影響はみられなかった。なお、一般方式では志願者は前年比 121%と増加しているのに対し、センター方式では同 96%と減少している。

理工、生命科学、薬の３学部では学部個別配点方式に新たに「理科２科目型」を導入した。既存の「理科１科

河合塾
©Kawaijuku Educational Institution.

目型」に比べて単純に理科１科目分負担増になるとあって、いずれの学部も志願者数は「理科１科目型」に及ばなかった。とくに理工学部の志願者数は「理科１科目型」の 2,611 人に対し、「理科２科目型」では 853 人と、３割程度にとどまった。

薬学部は全国的には不人気の学系であるが、立命館大の志願者数は前年比 107%と増加した。昨春４年制の創薬科学科を新設したものの、学部全体の志願者数は増加しなかった。今春の志願者増はその反動もあるだろう。今春の志願者数は薬学科で 115 人増（前年比 107%）と、増加の中心は６年制学科となっている。

キャンパス移転後２年目となる経営、政策科学部の志願動向は対照的である。経営学部は昨春志願者が大きく増加した反動で、今春は前年比 94%と減少した。一方、昨春は前年並みにとどまった政策科学部の志願者数は、今春は前年比 140%と大きく増加した。

[関西大学]

大学全体の志願者数は前年比 99%と前年並みである。方式別にみても一般方式で前年比 99%、センター方式で同 98%と、大きな変化はみられない。

今春は法、経済学部に大きな入試変更があった。法学部では一般方式に全学部日程同一配点方式を導入した。系統人気に加え、新方式に１千５百人近い志願者が集まったこともあり、学部全体の志願者数は前年比 143%と大きく増加した。経済学部では全学部日程同一配点方式の導入とともに、センター方式に前期４科目型、前期６科目型を導入し、前期を複線化した。こちらも前年比 110%と志願者は増加した。

このほかの学部の動向をみていくと、志願者が増加したのは社会、人間健康学部である。両学部とも昨年志願者が減少しており、その反動もあるだろう。一方、文、外国語、社会安全、政策創造学部などでは志願者が減少した。こちらも前年の志願者増の反動が出ている。とくに前年の志願者増加率が高かった社会安全、政策創造学部でそれぞれ前年比 76%、81%と減少率が高くなった。

理工系学部ではシステム理工（前年比 93%）、環境都市工（同 92%）、化学生命工（同 95%）、といずれも志願者が減少した。システム理工、化学生命工学部は２年連続の志願者減だが、とくに化学生命工学部は 2007 年度の学部新設以来最少の志願者数となった。

[関西学院大学]

大学全体の志願者は前年比 91%、３年連続の志願者減である。過去 10 年で最少の志願者数であった昨年よりさらに減少する結果となった。方式別でも一般方式で前年比 92%、センター方式で同 89%と、いずれも減少した。センター方式では今春より従来からの３科目型、５科目型に加え、英語検定試験活用型を導入したものの、志願者の増加にはつながらなかった。

学部別にみても、志願者は人間福祉学部で増加、総合政策学部で前年並みとなっているほかは、いずれも減少した。とくに減少率が高いのは教育（前年比 84%）、社会（同 81%）、商（同 85%）、理工（同 87%）学部などである。全国的には人気となっている文系学部だが、関西学院大では志願者減となっている。

©Kawaijuku Educational Institution.